

横島村

御役人中

弥兵衛同

西宇治郷山限り

北大川

三〇〇 差入置申一札之事 (六石山尼ヶ瀬道付替につき)

差入置申一札之事

一横島村領字六石山、其元衆中御所持之山中江尼ヶ瀬道筋所々付替仕度候ニ付願相濟候上、右山所持之衆中江其段御願申上候処、御承知被下忝普請取懸り可申候、依之向後若自然新規普請所道筋之間上下不限土砂方様御目障りニ可相成様崩落候場所等出来仕候ハ、当郷中より急度手入普請仕、六石山所持之衆中江ハ勿論横島村江茂聊役界相懸申間敷候、為後日一札差入置申処仍而如件

宇治田原郷中惣代

上町村庄屋

又右衛門 (印)

天保五甲午年六月

下町村庄屋

儀兵衛 (印)

弘化三年

午二月

横島村

庄屋 宗治

同 幸助

同 年寄 新九郎

同 伝七

同 重右衛門

同 清右衛門

頭百姓 与右衛門

同 善左衛門

同 治兵衛

三二八 (式百ヶ年宛山に差入証文)

(前欠)

六石山御年番

御惣代中

東三郷田原立会

南三郷立会山

四方境

又田原郷立会山一本松限

又白川山限

後日差入申一札依而如件
嘉永五子年十一月

城州久世郡
槇島村

同 与八郎

同 重兵衛

同 平四郎

同 善五郎

同 助右衛門

同 幸太郎

同 新右衛門

同 藤右衛門

同 庄右衛門

田原郷之口村
世話人 五兵衛

大道寺村 久五郎

奈島村

徳左右衛門殿

金兵衛殿

五八〇 差入申一札之事 (六石山分地につき)

差入申一札之事

一 槇島村領字六石山先年奈島村金兵衛殿へ年限式百ヶ年之間宛山
二 致置候処、其内右山三步通其御村方江分地被致、御年貢之儀者
銀式拾目二相極メ有之候処、此度双方得心之上相對を以土砂方御
奉行様之御入用迄年々銀五拾目御出銀被下、尤毎年十一月晦日迄
二両用共合銀七拾目当村江直々御納メ被下候約定仕候、然ル上者
立木生立候節ハ何時成共祓伐之節其元衆中より差図次第第二土砂方
御奉行様江早速願出可申候、右山年限中聊差支毛頭申間舗候、為

後日差入申一札依而如件

嘉永五子年十一月

城州久世郡

槇島村

白川村

新次郎殿

庄次郎殿

利右衛門殿

市左衛門殿

六 書付写 (六石山諸証文)

(表紙)

書付写

宛山一札之事

(No. 3 にあり、略)

乍恐口上書を以奉願上候

一 槇島村持字六石山之儀、去ル文化六巳年より山年貢卷ヶ年二銀
六拾目宛ニ而白川村江永世宛山証文請取銀廿三貫目出銀いたし

置、今寅年迄請来り候処、此度榎島村より右地所差戻シ候様懸合有之候得共、談シ出来不申候ニ付、榎島村より及御出訴ニ付、双方へ厚御了解被為成下、猶又精々及対談候得共、談シ出来不申候折柄、同州綴喜郡内里村周助当郷宿江参り合居り互ニ存知合之間柄ニ付、対談之手続及承り候上、則同人仲人ニ立入取暖、右一件事済仕候趣左之通りニ御座候

一右山之義是迄請来り候場所ニ候得共、此度依取暖立木追々ニ祓伐り仕地所差戻シ可申候ニ取極、尤苗木者相残シ可申候、且又立木祓伐り之節者白川村より通達有之候得者榎島村より早速土砂方御役所江願出祓伐り差支無之様取斗可申候、相互ニ為取替一札者仲人江相渡し宛山証文之義者榎島村へ為差戻、右一件都而和濟相調事済仕候義ニ相違無御座候、然ル上者自今双方共聊申分無御座候、依之今般乍恐双方并取暖人連印形を以濟口書奉差上候間、乍恐右願之趣御聞濟被為成下置候ハ、一同難有仕合奉存候、以上

天保十三寅年

十二月十六日

榎島村

庄屋 与右衛門

同 惣次

年寄 五郎右衛門

同 新九郎

同 伝七

年寄 与八郎

百姓惣代重兵衛

白川村

庄屋 利右衛門

年寄 与兵衛

上林六郎様

御役所

前書添口書之通り相互ニ急度相守り可申候、為後証双方連印形之書付為取替置候処、仍而如件

榎島村

惣代

庄屋 与右衛門

同断 宗次

年寄 伝七

白川村

庄屋 利右衛門

年寄 与兵衛

新二郎

取暖人内里村

周助

一札之事

一六石山出入一件之義、此度内里村周助殿取暖を以内濟仕候ニ付、則其趣上林六郎様御役所江濟口書奉差上候上者、約定之通り右一山之立木祓伐り相濟候迄、譬下草たりとも当村之もの□□猥成義決而為致問敷候、為後証別紙一札依而如件

天保十三寅年十二月

榎島村

市左右衛門(カ)

新二郎

徳兵衛

久五郎

弥兵衛

庄屋 与右衛門

同 宗次

年寄 五郎右衛門

同 新九郎

同 伝七

同 与八郎

百姓惣代重右衛門

白川村

御役人中

山請負人中

立木買取証文之事

一銀三拾貫目也

右者各々方江当村領山字六石山下作宛山ニ致置候場所、從先年
植付被置候立木伐り残り之場所、村方示談之上昨辰年前年山一
之手続ニより内里村周助殿相頼、則同人口入を以昨九月立木代
銀三拾貫目即銀ニ買取可申候処実正也、然ル所村方銀子不融通ニ
而渡シ方段々及延引、依之尚又周助殿相頼当年十一月晦日迄村方
借用銀ニいたし申処実正明白也、然ル上者右限月ニ至り銀子不調
達ニ候ハ、先達而山内伐り取願濟之場所より勝手ニ立入伐り取
可被成候、其時一言之異事申間敷候、且其余之場所者先年取替せ
証文面通り土砂方御奉行所江御願可申上候、聊差支無之様取斗可
申候、尤一山立木追々ニ伐り取相濟候迄ハ、村方之もの山内江相
立入申間敷候、為後日一同連印証文差入申候処依而如件

弘化二巳年六月

城州久世郡檳島村

庄屋 宗次

同 幸助

年寄 伝七

同 重右衛門

同 新九郎

同 清右衛門

先庄屋与右衛門

城州久世郡白川村

六石山下作宛衆中

前書之趣聊相違無之、万一不埒之筋御座候ハ、拙者罷出急度埒明
可申候、依之奥書印形仕候、以上

城州綴喜郡内里村

暖人 周助

一二〇 一札(金井戸山新道につき)

一札

一貴殿御所持金井戸山鮎汲場之上之手ノ谷筋へ此度新ニ小道を付
下刈柴等浜出し致度段御頼申入候処、御承知被下忝、依之任御差
図新規ニ巾式尺通り道を付通行致候義ニ御座候、尤此道筋之左右
立木ハ勿論下柴等ニ至迄猥ニ伐採申間敷候、若又格別之邪魔ニ相
成候事於有之ハ御談申候上ニ而苟分可致候、万一不埒之取斗氣俣
いたし候義有之ハ、何時ニ而も御塞通行御差止可被成候、為後証
道筋借り受証文如件

白川村

